

日本ベトナム外交関係樹立40周年



錦織監督

映画の現場から



●●53

日本ベトナム外交関係樹立40周年を記念し、映画「渾身」がベトナム国内で上映されることが決まった。11月のハノイ、ホーチミン、ダナンの3都市での上映に先立って来月初旬、日本・ベトナム文化交流協会さんのはからいで、レセプションと試写会が現地で行われる。

レセプションには大臣をはじめベトナム政府関係者や、ベトナムの映画監督、俳優、女優、配給関係者、在ベトナム日本企業の方々など1200人が招待されるという。主演の青柳翔さんと私も現地に飛び、上映前の舞台あいさつをする予定だ。

協会の理事長さんから、「渾身」はベトナムの方々「日本の心を伝えられる作品だということに加え、誇りうる日本人の矜やかさや優しさなどが詰まっている、とのコメントをいただいた。

数ある映画の中から隠岐

3都市で「渾身」上映へ

の映画「渾身」が、日本人を描いた日本代表作品として上映される。作品完成までご尽力いただいた多くの方々に、この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

ベトナムには約1300社の日本企業が進出しているが、近年は韓国の映画やドラマがベトナムに進出。空前の韓流ブームが巻き起こり、今まで多くの

人がそっぽを向いていた韓国製品が、売り上げを伸ばす現象が起きているという。映画で描かれる韓国のイメージが、経済にも好影響を与えたというわけだ。

映画やドラマなど映像コンテンツは、政治と一線を画すべきだと思うが、国内の市場と大衆に迎合してばかりの日本映画と、世界の映画制作事情の違いを痛感

する。

映画などのソフトが、経済までも左右しかねないことは言うまでもない。多くの人たちに支持されることも大事だ。しかし、空気に流されず、多くの人に伝えなければならぬ映画もあるはずだ。

文化活動によってこそ伝えられる歴史観や死生観。世界の多様な考え方や人々の「在り方」に触れられることこそ、人類の相互理解と平和への一歩ではないだろうか。

「日本らしさ」や「おもてなしの心」を描ける場所。それが島根であり、ローカルだ。経済の発展だけでなく、歴史や文化をも並行して大切にしなければ、日本がおかしくなってしまう。

島根の歴史、とりわけ日本海に浮かび、大陸との間に位置する隠岐の歴史を顧みて平和の大切さを想い、願う。島の伝統、古典相撲の精神「一勝一敗の心」こそ、長い歴史に裏付けられた先人の知恵であり、最先端の考え方だと思う。ベトナムでの「渾身」の反応が今から楽しみだ。

(錦織良成・映画監督)

第4金曜掲載



映画「渾身」のベトナムでの上映を告げるチラシ。左が表面